会　議　録

名　　称：平成２６年度北九州市地方独立行政法人評価委員会（第２回）
開催日時：平成２６年７月９日（水）１４：３０～１６：３０
開催場所：北九州市役所５階　特別会議室Ａ

次　　第　１　北九州市立大学の平成２５年度財務諸表及び剰余金の繰越について
　　２　北九州市立大学の平成２５年度業務実績に関する質疑応答

［開会］

１　北九州市立大学の平成２５年度財務諸表及び剰余金の繰越について

〇大学事務局より平成２５年度財務諸表及び決算報告書の説明（資料６～６－６）
〇市所管局（産業経済局）により財務諸表及び繰越の承認に係る市の考え方を説明（資料７～７－４）
〇質疑応答

〔質疑応答　内容〕

（委員）

目的積立金を承認するときは、目的を明示しなくてもよろしいのでしょうか。

（市所管局）

目的積立金の剰余金の使途に関しましては、中期計画の中に示されておりますので、この中ではあえて示さなくて良いと考えております。また、大学の方は、本来の教育研究の質の向上であったり、また、経営組織の向上であったりというところに使うと聞いておりますので、大学の意見も尊重しつつ、具体的な使い道については、協議してまいりたいと考えております。

目的積立金というのは、市の財政状況が非常に厳しい中で、教育研究向上等の組織運営のために積み立てているわけでございますので、この目的積立金については、上手く活用するということで、双方が理解をしております。

（委員長）

私立大学の場合は、基本金・積立金をもっていますが、学生会館を建てるときには、年度を区切って文部科学省の承認が必要になり、変更する場合は理事会等への付議など厳しい状況です。その辺りはいかがでしょうか。

（市所管局）

目的積立金を使って、大きなハードものをつくったりした場合等は、将来的に運営交付金や市の持ち出しが多くなるようなことが想定されるのであれば、やはりそこは協議事項だと考えております。

（委員）
　損益計算書において、受託費の減少が目立ちますが、原因は何でしょうか。
（大学事務局）
　予算と決算の比較でいうと、毎年度過去３年間分の平均値を予算として計上しておりますが、実際は、国際環境工学部を中心に受託研究費が減ってきていることが影響していると思われます。
（大学副学長）
　新規の大規模なプロジェクトが、昨年取れなかったことが影響していると考えます。また、３～５年のプロジェクトが集中していたわけですが、５年スパンのものが２４・２５年度に集中的に終わっていますので、過去３年間で平均して見積もった予算と齟齬が出てきていると考えています。
（委員）
　新しいものを取りに行くのが難しくなっているという面もあるのでしょうか。
（大学副学長）
　研究が一旦終わる頃に予算を申請するのですが、うまくつながらない状況にあります。

（委員）
　収益の中で財務的な運用を色々細かくすることで、少し運用益が出ると思うのですが、その辺の努力はどういう形で見えるのでしょうか。
（大学事務局）
　確かに、細かくやれば運用益は出ると思います。低金利であまり細かくやってもどうかなという部分はございますけれど、そこも非常に大事な部分であると思っていますので、今後、少し頑張っていこうかなと思っています。
　また、運用の商品をどうするかというのがありまして、基本的に今まで、定期預金中心だったのですけれど、もう少し幅広くやっていこうかなと思っています。ただ、少しリスクがあるものについては慎重に考えていきたいと思います。
（委員長）
　私立大学が資産運用するためにわざわざ資産運用の専門家を財務部門に置いています。大学の場合は、授業料が入るのは半年毎であるため、半年間は運用できないことから、少し専門知識を持った人で上手くいくとプラスになるのではないでしょうか。また、独自の積立金に繰り入れるため、場合によっては、そういう少し専門的な知識がある人が育ってくると、大変よろしいのかと思います。

（委員）
　施設整備費補助金の増額分は、北九州市から出る補助金でしょうか。本館Ｅ棟他、外壁

改修工事費の増加に充当されているのでしょうか。
（大学事務局）
　ご指摘の場所以外も含めた市から出る補助金です。市から大規模な改修工事等につきましては、施設整備補助金という形で、運営交付金とは別にお金を措置していただく形になっておりますので、その分の補助金でございます。
（委員）
　予算に対して支出のほうが増えている理由は何でしょうか。
（大学事務局）
　ひびきのキャンパスにおける設備の整備のため、急遽必要になったため執行したことが原因です。執行の段階で、予算を流用して行っていると考えていただければと思います。全ての施設整備を市の補助金だけで行っているわけではなく、大学の自己収入も含めて行っております。

（委員）
　目的積立金の取り崩しは、図書館か何かを予定されていたのでしょうか。
（大学事務局）
　予算の段階では、教育の質の維持・向上を図るために、目的積立金の取崩しを考えておりましたが、収入の確保それから経費の削減を図りまして、目的積立金の取り崩しは行わなかったとご理解いただければと思います。
（委員）
　取り崩した場合は、相当分について市からの補助金は返還することになるのでしょうか。
（大学事務局）
　いえ、市からの補助金は全額いただいて、更に目的積立金の取り崩しを予定していましたが、それが不要となったということなので、市への返還はありません。

（委員）
　今期２億円くらい資金が増えている原因を教えてください。
（大学事務局）
　退職金や施設整備費が未払金となっている一方で、財源は市からすでに入ってきているため、その分がキャッシュとして残っています。
（委員）
　大体毎年、利益分くらいのキャッシュが残っているのでしょうか。
（大学事務局）
　その通りです。３月末であるため、４月末ぐらいに授業料が入ってきて、３月のこの時期から少し減ってきて、４月の途中、もう少し資金が落ちますが、それでも１０億円前後くらいは残るくらいです。

（委員）
　大体、必要資金としては、５億円くらい手元にあればいいんでしょうか。
（大学事務局）
　資金繰り上の資金であれば、５億円もあれば十分だと思います。あと資金として、教育研究の向上の目的等を勘案し、他大学の状況も踏まえると、本学の場合の経常費用に占める目的積立金の割合は１１％、持分としては、８億円くらいで大体平均的なところなのかと思っております。

（委員）
　受託研究費が受託される対象というのは、行政に関する研究が主なのでしょうか。それとも例えば、企業と一緒なのでしょうか。
（大学副学長）
　大体、単年度数千万円クラスというのが、国もしくは国絡みのプロジェクトが多いです。その中で、最近では一旦国から企業に行って、企業から再受託という形で降りてくるものもあります。

（委員）
　留学生の方の家賃の補助というのは、基本的に全留学生に対して、ベースに幾らということで、補助なされているのでしょうか。それとも、申請があった学生に対して行っているのでしょうか。
（大学事務局）
　基本的に申請があれば補助していますが、基準として月２５，０００円という制度を作っておりまして、それを超えるような家賃の所に住まないといけない場合は、それに対して補助しております。

（委員長）
　派遣留学生の事業について、外部資金の活用により奨学金が減ったということですが、これは経常的に見込めるものでしょうか。
（大学事務局）
　平成２５年度は特に、グローバル事業の国からの補助の採択を受け、その関連で国（ＪＡＳＳＯ：独立行政法人日本学生支援機構）から奨学金が手厚くありましたが、今後も保証されるかどうかは、分かりません。

（委員）
　施設整備のお金の出し方は、市が事業に対して年度でつけてくれるのか。それともその年度でどこまで業務が執行されるかにっよって、年度別に初めから切り分けていただける

のでしょうか。
（大学事務局）
　基本的には単年度という形で行っておりますが、単年度で終わらないような場合は、市と協議を行うこととなっております。一部繰越、事業が終わらなくて翌年に繰り越した分は、市にお願いして、事業費の財源の補助も繰り越してくださいとお願いしています。
（委員）
　その点は、大学の財務諸表に表われず、市で担当してもらっているという形でよろしいでしょうか。
（大学事務局）
　市は、予算繰越の手続を議会での承認を経てから行っています。

〔質疑応答　終了〕

（委員長）
　当委員会では、この財務諸表の承認及び剰余金の繰越承認について、次回の会議で意見書を決定させていただきたいと思います。

（市所管局）
　次回、意見書の決定後、承認に向けた所定の手続に入らせていただきたいと思います。

２　北九州市立大学の平成２５年度業務実績に関する質疑応答

〇事務局より平成２４年度事績の全体評価・分野別評価（資料３－２）及び個別評価一覧（資料３－３）について説明
〇大学事務局より平成２４年度実績の評価の対応状況について説明（資料３－４）
〇質疑応答
〔質疑応答　内容〕
（委員）
　「Ⅰ　教育」の中の「②教育課程の改善、厳格な成績評価、単位認定」について、検証をして必要に応じて改善を行うというふうに計画ではなっていますが、改善する項目が全然なかったのか、あるいは何か改善する項目があって、それに対して措置を行いましたということなのでしょうか。
（大学事務局）
　学部・学群のＧＰＡ分布が中央値から大幅にずれていないか、教育開発支援室でとりまとめ、各学部等に返しています。現在のところ、中央値から大幅にずれているところがないので、成績のつけ方に対して、特段大きな改善の必要はないと感じております。よって

学部等での検証以外に大きな取組等は行っておりません。
（大学副学長）
　極端な成績の付け方等で気になる場合は、具体的にどうなっているのか、学部長が担当者の教員のヒアリングを行っております。
　また、各教員の授業・成績の付け方等については、授業評価アンケートを行っています。各教員には、アンケート結果をまとめたものを返して、それに対しての改善みたいなものをコメント欄もきちんと書いてもらっています。それは、学部長が目を通した上で、学生に対しても公表しています。これも一定の成果が出ていると感じているところです。

（委員）
　ＡＩＭ７階に開設していたサテライトキャンパスを小倉駅のアミュプラザへ移転されましたが、移転したことで受験生が増えたというような効果というものはあるのでしょうか。
（大学事務局）
　受験生が増えたというよりも、在学生が閉館時間を気にせずに自由にディスカッション等ができる時間が取れるなど、非常に便利になったと喜んでおり、サービス性が上がったと思っています。

（委員）
　「まちなかＥＳＤセンター」のようなプロジェクトの評価は、プロジェクトに入る人数やプロジェクトをやった結果なのか、やった結果のアンケートでの評価を行うのか、どういう基準があるのでしょうか。
（大学事務局）
　講座の参加者数やＥＳＤの推進マイスター制度の設計をやったりとか、単位認定を行うための協定を結んだりなどの点も評価しております。また、地域に対する貢献度についても評価しているところでございます。

（委員）
　私は、北九州や福岡県の経済団体に所属しておりますが、その中でもやはり北九州の企業においても、北九州の学生に魅力を分かってもらい、就職先として魅力を感じていただきたいが、なかなか発信が上手くできていないということを自覚しております。インターンシップ等の体験で、北九州にももっと色々な自分の興味のあるようなものがあるかもしれないと思うきっかけになっていただきたいと思います。
（大学事務局）
　一般に知られている企業ではなくても、いい企業はたくさんありますので、インターンシップ等の体験は、そういったところを知ってもらういい機会だと思っております。

（委員）
　北九州は、中小企業でオンリーワンみたいなところがたくさんあると思うので、そういうものの発信の一つのチャンスになればいいと経済団体の方でも思っています。インターンシップを通じて来ていただけることで、その会社に限らず、北九州の企業について興味のきっかけになっていただくという意味で、大事かなと思っています。今後もより拡大した活動をできたらというふうに評価されていますが、これは、今回の商工会議所に限らず、他の経済団体・活性化協議会とかでもマッチングを推進しているプロジェクトがあるのですけれども、そういうような展開も考えていらっしゃるのでしょうか。
（大学事務局）
　既に活性化協議会の提供しているインターンシップ制度は活用していたと思います。通常、協定は結ばないのだと思いますが、今回締結したのは、通常のインターンシップの期間である１～２週間ではなく、かなり長い期間を一つのプログラムとして作り上げたいという意向があったためです。
（委員長）
　海外の場合は、かなり長期で行います。それを評価してくださると、学生はもっとやる気になるわけです。私は以前、インターンシップを各大学で評価し、成績の中に少しだけ別枠でもいいので組み込んで欲しいと要望しました。
（大学事務局）
　経済学部では、必修ではありませんが既に単位化しており、地域創生学群は、長期プログラムを持ち込んでいます。今後、インターンシップはより積極的に進めていくというのが一つの方向性ですので、進めていきたいと思います。

（委員）
　「まなびとＥＳＤセンター」に参加された学生の満足度等のヒアリングは行っているのでしょうか。
（大学事務局）
　基本的には、アンケート等はとるようにしています。何らかの評価ができるような材料はそろえております。

（委員）
　地域に関する研究というところで、商工会議所や産業界、あるいは市が研究費を出して、北九州市の中の企業を学生にどう知らせればいいかという研究をしてみてはいかがでしょうか。自分たちの足元のことで、しかも直接持っている学生のことなので、学生のインターンの話は教育の話で、研究は研究だとやるのではなくて、教育と研究というのは一体として考える必要があるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

（大学事務局）
　重要な指摘だと理解させていただき、今後取り組みたいと思います。

（委員）
　電子シラバス等の連動による学習支援環境のシステムの運用がどういう形態になっているのでしょうか。運用やメンテナンスにおいて、非常に柔軟に対応できる体制になっているのでしょうか。あるいは、システムの中身について、教員あるいは職員側にしっかりした知識があって、理解しているのでしょうか。業者が押し付けたものを、このまま使っているのでしょうか。その辺りを教えていただきたいと思います。
（大学事務局）
　第２期中期計画に入って、やはり情報が重要だということで、情報総合センターを設立しました。そこに、助教や講師、システムの専門家を数名置いています。プロジェクト単位で物事を動かし、そのプロジェクトごとに、各教員が張り付いているという状況です。直接開発するのはやはり無理があるので、色々な計画を練って、業者との間でやりとりをしながら、開発をやっていくというやり方です。
（委員）
　大学主導で開発して、メンテナンスも大学主導でやるという方針でよろしいでしょうか。
（大学事務局）
　そのとおりです。維持管理の協定は、５年くらいで結んでいます。
（委員）
　具体的に教えている先生方の現場との情報の交流というのが、何年かたつと、そこにひずみが出てくると思うのですが、その辺りは現場のほうはどうですか？
（大学副学長）
　教員からすればできそうな感じがするけれど、システム担当からすると、いろいろな課題がどうもあるようなので、そこは今後やっていただきたいなと期待を持っている感じです。
（委員長）
　学生がうまく活用でき、これを元にして、授業評価も電子シラバスの活用結果として、いい形で出てくると思います。おそらく、これから先の段階なのかもしれませんが、ぜひしていただきたいと思います。

（大学事務局）
　実は学生が現在取得している成績まで画面上に出して、あと何が残っているのかというところまで見られるよう、高いレベルのものを完璧につくろうとして、結局遅れ遅れになってきています。一旦、レベルを抑えてつくりましたが、学生には十分、役立っているということです。

（委員長）
　おそらく、学内関係者がタッチすることで、うまくいくと考えますので、これからのことだろうと思います。
（大学副学長）
　常に時々刻々と教員側でカスタマイズできるようなシステム導入が一番好ましいのですけれど、やはり、いろいろな進捗状況等の話もありますし、どこまで各教員がその中に絡むかという問題もあります。実は今、各学部からの専任教員が全部兼務で入っていないのです。本来であれば、こういったシステム担当には、各学部から教員が兼務でその中に入り、常にその中で議論をしていく必要があると思います。やはりオープンなシステムが一番好ましいのです。オープンなシステムの中でカスタマイズしていくのが、時期等の問題で、まだ出来ていない。恐らくこれから、その辺りの問題が出てくるかなと思います。

（委員）
　職員については定数管理を厳格にしているということですが、大体定数に対して、今のところ割合をご教示ください。
（大学事務局）
　事務職員については、ほぼ定数どおりです。教員は、今、２６５名くらいだと思います。定数に対して１０名くらい少ない状況です。
（委員）
　定数を超えたら、何かあるのでしょうか。
（大学事務局）
　超えて、即どうこうということはないのですが、やはりそこを管理していかないと経営上の問題がありますので、そこはできるだけ守っていく形です。
（委員）
　やはり定数が一番いい状態の人数ということではあるのでしょうか。
（大学事務局）
　あまり少ないと、そこで適切な教育研究に支障があると考えます。
（委員長）
　文部科学省は、できるだけ教員を増やして、教員一人当たりの学生数を減らすようにということですが、人件費のコストの問題との兼ね合いと、それからもう一つは各学部の中で、担当科目との兼ね合いもあるでしょうから、なかなかうまくいかないところもあろうかと思います。やはり少し教員が少ないので、業務がオーバーワークになっているというのは事実のようですから、どこが適正かというのをきちんとすべきだと思います。
（大学事務局）
　学部によってのばらつきがあります。法学部が、どうしても法科大学院の関係があって、そちらで人が採られているという状態がしばらくありました。

（委員長）
　法科大学院の方で採用したのですか。
（大学事務局）
　欠員が出たとき、主要な科目に対して、やはりいい人物を採用したいのです。ところが、そういう人物は法科大学院に採用されていたりするので、なかなか欠員の補充がうまく動かなかったという部分があり、法学部は、少し欠員も多めに抱えている状況もあります。
（委員長）
　他の大学でロースクールの場合は、期間を限定しての採用というのが多くあったと思います。現在の状況を考えると、ロースクールをつくらなかったということは、ある程度よかったのではないでしょうか。
（大学事務局）
　これからは、採れるようになってくるかなと思っています。

〔質疑応答　終了〕

［事務局より次回の委員会のスケジュール等を説明し、閉会］